

# アドレナリン

2007(平成19)年8月11日鑑賞(ホクテンザ1)



監督・脚本=マーク・ネヴェルダイン、ブライアン・テイラー/出演=ジェイソン・ステイサム/エイミー・スマート/ホセ・パブロ・カンティエロ/エフレン・ラミレッツ/カルロス・サンツ/ドワイト・ヨアカム (ムービーアイエンタテインメント配給/2006年アメリカ映画/94分)

## 第2章

男臭さ満開!

……毒薬によって今にも止まろうとする心臓をドクドクと脈打たせるためには、アドレナリンを出し続けるしかない。そんなバカバカしい発想をそのままアクション映画にしたのがコレ。しかし、その方法は……? コメディタッチの恋模様(?)にみる主人公の純情な一面は意外だが、肉体派のジェイソン・ステイサムは今が旬とばかりにハッスル、ハッスル! しかし、一体いつまでアドレナリンを出し続けることができるの……? それが大問題だが……。



## アクションスターとして今が旬

『トランスポーター』(02年)で新しい時代のアクションスター像を確立したジェイソン・ステイサムは、元飛び込みの英国ナショナルチームのベスト・ダイバーの1人だったという正真正銘のトップアスリート。身長・体重そして筋肉量などを、『ロッキー』シリーズや『ランボー』シリーズのシルバスター・スタローンや『ターミネーター』シリーズのアーノルド・シュワルツェネッガーらと比較したデータがあれば面白いのだが、既に60歳となった彼らに比べると、1972年生まれのジェイソン・ステイサムは今がアクションスターとしての最盛期。したがって、何が何でもアクションのネタを探し出し、スクリーン上で暴れ回らなければならないのが、現在の彼の宿命……。



## 映画のネタはどこにでも……?

そんな中、心臓の停止を防止するためにはアドレナリンを出し続けなければならない

いという、何ともバカげた発想をそのままネタに使得って映画化したのがコレ。まさに映画のネタはどこにでも転がっているものだと痛感！ そんな映画だから、それなりの医学性をキープするべく、シェブ・チェリオス（ジェイソン・ステイサム）の主治医としてドク・マイルス（ドワイト・ヨアカム）が登場し、折にふれてもっともらしい医学用語や薬の名前を並べているが、果たしてその信憑性は……？

それにしても、2008年8月8日午後8時に開催される北京オリンピックを1年後に控え、中国製食品の安全性が大きな社会問題となっている今、チェリオスと殺し屋No.1の座を争うヴェローナ（ホセ・パブロ・カンティーロ）が、眠っているチェリオスに打った注射の中に入っていたのが、中国製の毒薬だったとする設定はちょっと挑発的にすぎるのでは……？

### アドレナリンを出し続けるためには……？

今にも止まりそうな心臓の鼓動をドクドクと脈打たせるためには、アドレナリンを出し続けなければならないチェリオス。そのための方法は、必死になって走ったり、コカインを飲んだり、その他ドク・マイルスから言われたことを忠実に守りながら、ドクの到着を待つだけ……。

彼が今1時間だけ生き延びたいと願っているのは、彼に毒薬を注射したヴェローナへ復讐するため。その一念のためならば、どこをどう暴れ回ろうが、誰に迷惑をかけようが全く関係なしという態度はあまり誉められたものではないが、まあ現在の彼の切羽詰まった心境を思いやれば、仕方なし……？

ところで、アドレナリンを出し続けるためには激しいセックスという手もあるはず。しかして、チェリオスは恋人のイヴ（エイミー・スマート）と白昼堂々と衆人が見つめる中、激しいセックスに励んだりもしてみたが……？

### 意外に正直で純情……？

チェリオスが組織の中でヤバイ立場になったのは、ある殺しの仕事について、つい仏心を出してしまったため。そして、今彼がプロの殺し屋稼業から足を洗おうとしているのは、恋人のイヴと新しい人生を歩もうと決心したため。そこに物語のテーマを設定すれば純愛モノにもなりうるのだが、この映画はもちろんそうではないから、この恋愛模様の展開はかなりコメディ風……？

もっとも、彼はイヴに対してそれまで自分の素性を明かしてなかったから、それをきちんと説明し納得してもらうためにはかなりの時間が必要なはず。ところが、彼は今必死でヴェローナの行方を探しているうえ、アドレナリンを出し続けなければならないという緊急事態だから、ゆっくり時間をかけて現在の状況をイヴに説明する時間はなし。そこで、どうしても言葉も行動もシンプルで単刀直入方式になるため、イヴの頭は混乱するばかり……。

その結果、最初は白昼衆人環視の下での激しいセックスにもイヤイヤ応じていたイヴだったが、やっと馴れて良くなってきたのに、ケイタイでヴェローナの居場所がわかったという報告を受けると、チェリオスは途中で行為をやめヴェローナへの復讐に向かっていったから、イヴはこれにはちょっとおかんむり……？ もっとも、チェリオスの話と行動がホントかどうかを確かめるため、イヴがチェリオスの後をつけていったため、手っとり早くチェリオスの本当の姿を理解できるようになったのはラッキー。

こんなチェリオスの姿を見ていると、フリーの殺し屋に似ず意外に正直で純情だが、そうかといって、ホントにこんな男と一緒にあって幸せな人生を送れるの……？

## スタントなし、にビックリ！

ジャッキー・チェンなどをはじめ多くのアクションスターたちはスタントマンを使わず、危険なスタントにチャレンジする人が多いよう。今が旬のアクションスター、ジェイソン・ステイサムも当然そんな主義だから、この映画におけるアドレナリンを出し続けるための激しいアクションは、すべてスタントを使わない自前のもの。

そんなスタントを使わないアクションスターの面目躍如たるシーンが、クライマックスにおけるヘリでのヴェローナとの格闘シーン。暗黒街のボスであるカルリート（カルロス・サンツ）に銃弾を浴びせて彼のヘリに飛び乗ったヴェローナだったが、そのヘリに掴まってあくまでヴェローナと対決しようとしてきたのがチェリオス。チェリオスの手を振りほどこうとするヴェローナと、それに負けまいとするチェリオスとの上空3000フィートにおける壮絶な闘いはすべてスタントなしらしい。

しかし、その闘いの行方は……？ もちろん、それをここで言うわけにはいかないから、それはあなた自身の目で。もっとも、ひと言だけ言っておけば、それは多分あなたの予想をはるかに超えた意外なもの……？ 2007(平成19)年8月13日記